

リクルート=スタディサプリ講師 村山 秀太郎

米国第一主義の元祖

ヒリヒリする試合を制し、ロサンゼルス・ジャースがワールドシリーズを連覇した。2025年のアメリカ合衆国における最も有名な男は、東海岸がドナルド・トランプ、西海岸は大谷翔平と言ったら言い過ぎか。トランプ大統領はその第1期政権時から「アメリカ・ファースト！」と訴えていたが、この叫びは氏が言い出したものではない。実は1940年にアメリカ第一主義委員会という圧力団体が、アメリカがいかなるかたちでも第二次世界大戦に関与しないよう、アメリカの「孤立主義(Isolationism)」を支持する目的で設立された。1927年にニューヨークーパリ間の無着陸飛行に成功したリンドバーグも委員会の一員だった。「孤立主義」とは、アメリカ合衆国の伝統的な外交政策の原則とされた、ヨーロッパ諸国への不介入および干渉を認めないという外交姿勢を指す。第5代大統領モンローが1823年の「モンロー教書」で提唱したので「モンロー主義」ともいい、ヨーロッパとの相互不干渉と共に、ラテンアメリカなど西半球へのアメリカ合衆国の優先権を主張する根拠となった。

西海岸はロシア領？

ロサンゼルスは、1781年にスペイン植民地であったメキシコから入植した数十人が建設した、El Pueblo de Nuestra Señora la Reina de

Los Angeles de Porciuncula (天使の女王の町)だ。1810年、メキシコはスペインに対し独立戦争を開始し「1821年」に独立した。

当時、ナポレオン後のウィーン体制下で復活したブルボン朝スペイン王国では、絶対王政復活に反対して、1820年にスペイン立憲革命が起こり不安定な時期だった。それに乗じ、スペイン領のラテンアメリカで独立運動が活発になった。それに対して、フランス革命・ナポレオン以前の体制(旧体制、アンシャンレジーム)に回帰したいウィーン体制を支えるオーストリア帝国やロシア帝国は、スペインのブルボン絶対王政の維持を図り、現メキシコ以南つまりラテンアメリカにおける独立運動を押さえ込もうとした。その役割を担ったのがロシア帝国だ。

ロシアはベーリング海峡を渡ってアラスカに進出し「1821年」に同地を領有。さらに北緯51度までアメリカ大陸の太平洋岸を南下する動きを示した。それに待った！をかけたのが「モンロー教書」である。これこそが、アメリカ合衆国の土壤に根を張る「孤立主義」のひな型である。ちなみに、現在のアメリカ・カナダ国境が北緯49度。もしモンロー大統領が牽制球を投げていなければロサンゼルスもカリфорニアも現在ロシアだったかもしれない。ドジャースもエンジェルスもない。ロシアが独立直後のメキシコをつぶしにかかり、スペイン絶対王政をサポートしたかもしれないのだ。